

第75期
中間報告書

平成26年4月1日▶平成26年9月30日

CONTENTS

- 01 株主のみなさまへ
- 03 連結業績の推移
- 04 平成26年度第2四半期事業別営業概況
- 05 事業別の概要
- 06 Topics
- 07 連結財務諸表
- 09 会社概況
- 10 事業拠点



01

士魂商才

技術のジャムコは、士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めています。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。



Q 第75期(平成26年度)第2四半期決算(平成26年4月1日から同9月30日まで)の総括をお願いします。

A 平成26年度の第2四半期決算は前年度比で増収増益となりました。

航空機内装品事業でボーイング社の787型機関連内装品を中心に増産が進み、又、為替相場が前年同四半期に比べて円安で推移したことなどによって、売上高、経常利益とも大幅に増加しました。

航空機器製造事業では、熱交換器などの防衛関連製品やエンジン部品関係の売上高が残念ながら減少し、前年同四半期に対して経常損失が膨らみました。

航空機整備事業では、昨年度上期は組織再編などの影響で経常損失となっていましたが、今期は売上高が増加し、コスト削減効果もあって経常利益を確保しました。

これらの結果、グループ全体の売上高は344億13百万円(前年度比 58億8百万円増)、営業利益は31億36百万円(同 20億90百万円増)、経常利益は35億96百万円(同 24億40百万円増)、四半期純利益は25億38百万円(同 19億35百万円増)となりました。

Q 平成26年度通期の見通しはいかがですか？

A 通期の業績見通しにつきましては、航空機内装品事業において下期は出荷が順



調に進む見通しですが、その一方で製品の一部分で生産拠点の見直しやシンガポールの拠点の連結子会社化によって当初織り込んでいなかった一時的なコストが生じており、又、上期に苦戦した航空機器製造事業については、利益見通しを引き下げました。これらの要因によって、連結売上高 770億円(前年度 649億円)、連結営業利益 62億円(同 42.8億円)、連結経常利益 64億円(同 45.3億円)、連結当期純利益 39億円(同 27.2億円)を見込んでいます。なお、前提となる下期の為替レートは、1米ドル当たり105円としており、又、配当金につきましては、平成26年5月8日に公表しました1株当たり17円(中間配当は無)の予想を据え置かせていただいております。

Q 中期の見通しについてはいかがでしょうか?

A 一昨年の社長就任と同時に「安定した収益を上げることのできる『強い会社』の実現」を中期ビジョンに掲げ、平成25年度中期経営計画では「7」の達成、即ち「連結売上高700億円、経常利益率7%以上」を新たな中期目標としました。平成25年度は、その初年度にして売上高、経常利益ともに、この中期目標に対してあともう一步というところまで来ました。平成26年度の中期経営計画では、この中期目標を安定的に達成すべき目標として据え置いたうえで、平成26年度を「強い会社」の実現に向けた「飛

躍の年」と位置付け、平成28年度には売上高850億円をめざしたいと考えており、更にその先には1,000億円企業といった成長戦略も描いております。本格参入を決めた航空機用シート事業もその達成のための施策のひとつであり、航空機内装品事業における第4の事業の柱に育てなければなりません。又、ボーイング777の後継機となる777Xのラバトリー(化粧室)についても独占供給契約を結ぶことができたことも、将来への布石として重要なポイントです。

Q 4月から本格参入を開始したシート事業についてお聞かせ下さい。

A 現在、シンガポール航空のボーイング777-300ERの新仕様機向けに、ファーストクラスとビジネスクラスのシートを供給しています。また現在開発が進んでいるエアバスA350XWBでは、ビジネスクラス用のシート供給が決定しております。平成26年度のシート事業の売上高は30~40億円の見通しですが、平成27年度以降は100億円程度まで引き上げたいと考えています。

ジャムコはギャレー(厨房設備)やラバトリーで、QCD(品質・コスト・納期)について機体メーカーや航空会社から高い評価をいただけてきましたが、デザイン面では必ずしも欧米メーカーをリードしてきた訳ではありません。特にシートについては、機能性はもちろんのこと、デザイン面にも斬新なアイデアを採り入れていかなけれ

ばなりませんし、デザイン性を高めることで、生産手法の改善や新素材への対応など、技術革新も必要になります。これはキャビン(客室)全体に言えることで、今後はラバトリーなどについても、こうした側面に注力していきます。

※新製品のシートにつきましては、6ページのトピックスもご参照ください。

Q 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

A 当社グループは、これからも航空機事業に特化して、航空機内装品事業を基軸にし、航空機器製造や航空機整備の機能を併せ持つ、オンリーワンの航空機総合企業をめざしたいと考えています。このビジョンを実現するべく、その時々を経営計画を達成し、企業価値を向上させることが、株主の皆様との利益につながるものと考えています。

株主の皆様には、長期的な視点で、今後の当社グループの成長にご期待いただけると幸いです。

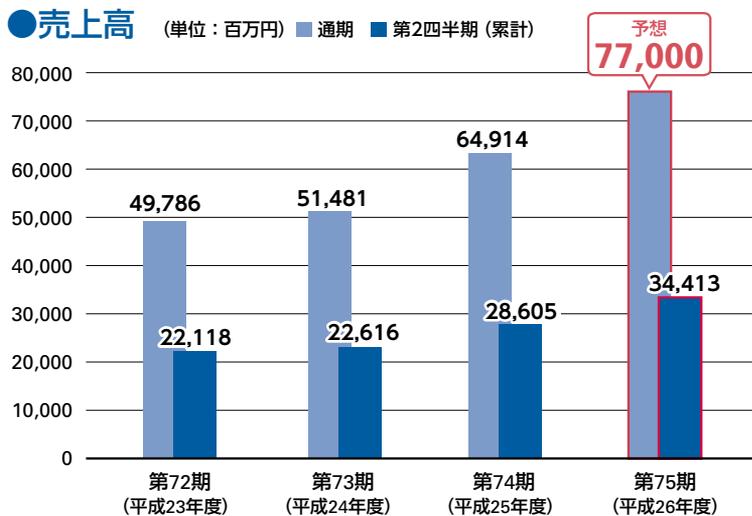
平成26年11月

代表取締役社長 **鈴木善久**

連結業績の推移

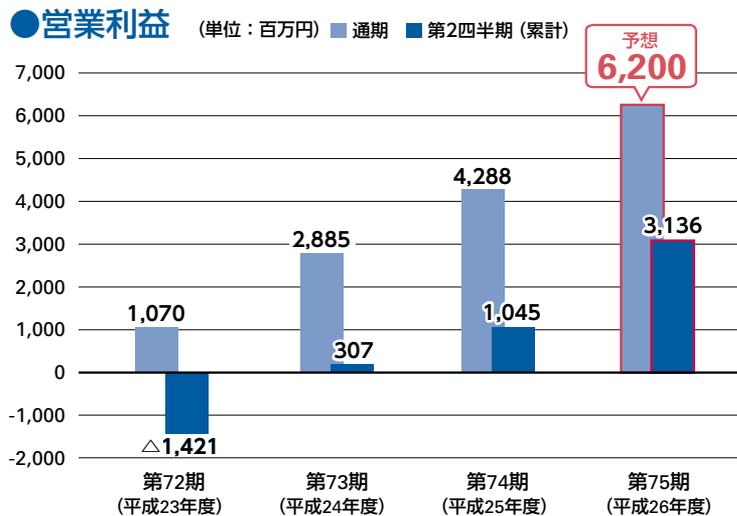
●売上高

(単位：百万円) ■ 通期 ■ 第2四半期 (累計)



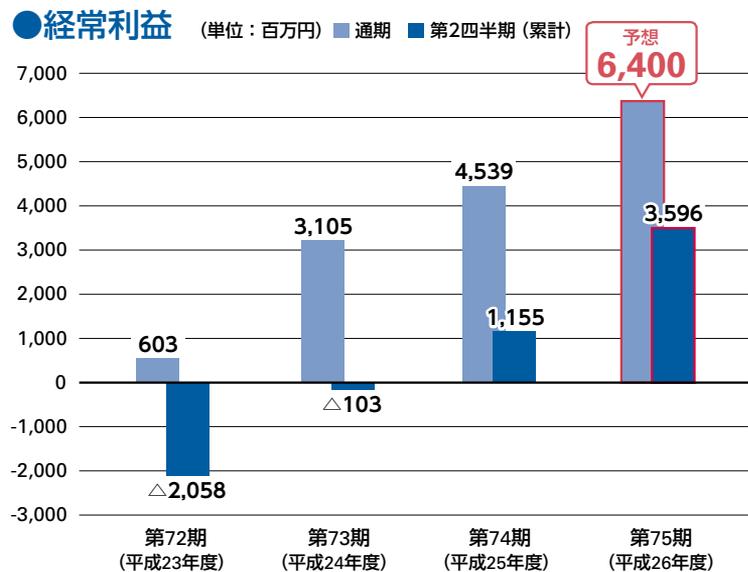
●営業利益

(単位：百万円) ■ 通期 ■ 第2四半期 (累計)



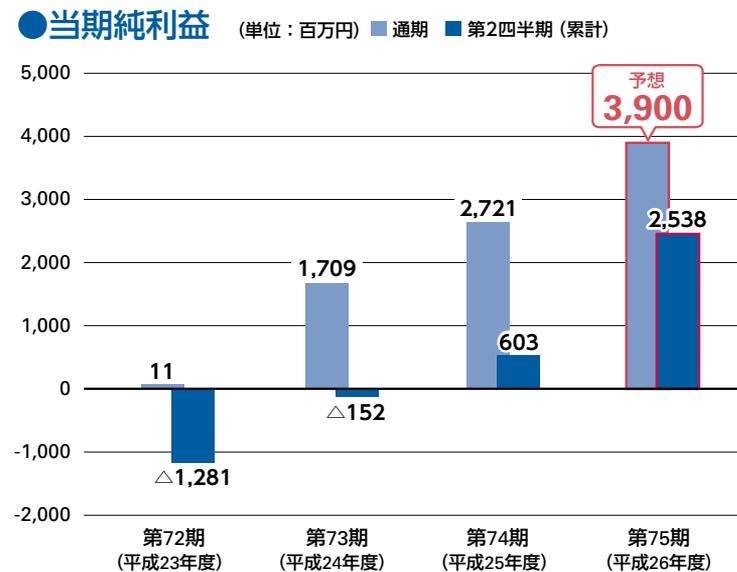
●経常利益

(単位：百万円) ■ 通期 ■ 第2四半期 (累計)



●当期純利益

(単位：百万円) ■ 通期 ■ 第2四半期 (累計)



平成26年度第2四半期事業別営業概況

航空機 内装品事業



売上高
288億54百万円

経常利益
38億67百万円

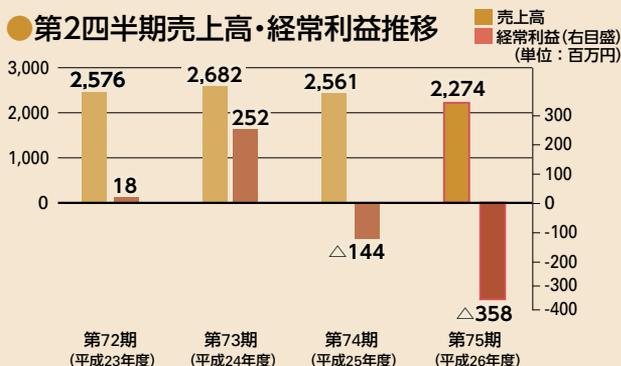
売上高

787関連内装品を中心に出荷が好調で円安効果もあり、前年同四半期に比べ大幅に増加しました。

経常利益

シート事業の生産体制の見直しや売上高の伸びから、前年同四半期に比べ増加しました。

航空機器 製造事業



売上高
22億74百万円

経常利益
△3億58百万円

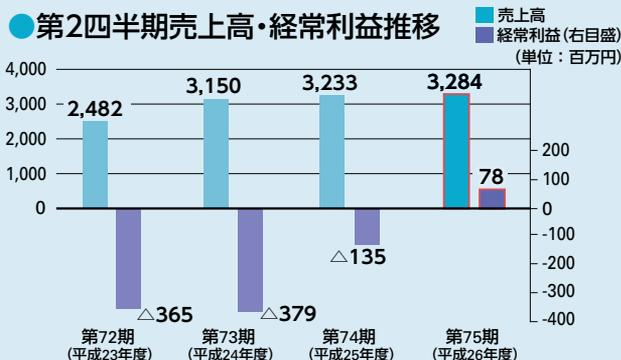
売上高

民間航空機用エンジン部品の生産量の減少や防衛関連部品の出荷予定時期の遅れなどから、前年同四半期に比べ減少しました。

経常利益

売上高の減少や新規品目の初期コスト増加の影響もあり、前年同四半期に比べ経常損失が増加しました。

航空機 整備事業



売上高
32億84百万円

経常利益
78百万円

売上高

整備品整備の生産量の伸びや整備事業全体の操業度の向上により、前年同四半期に比べ増加しました。

経常利益

売上高の増加や操業度の向上により、前年同四半期の経常損失から経常利益に転換しました。

事業別の概要

航空機内装品事業

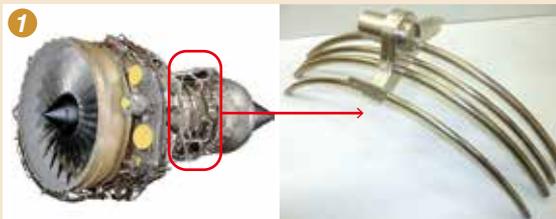
主力であるギャレー（厨房設備）、ラバトリー（化粧室）に加えて旅客シートの製造を手掛けることで、航空機の内装品すべての注文に応えられるようになりました。世界の主要なエアラインと、ボーイング社・エアバス社などの航空機メーカーに製品の企画・設計・製造・客室改造・認証取得までをトータルに提供しています。また、国内および海外のグループの技術の総力をあげて世界中のお客様のニーズにお応えし、トップクラスのシェアを実現しています。



① ボーイング787 搭載ギャレー
② ボーイング777-X ラバトリー契約調印式

航空機器製造事業

防衛関連の航空機に搭載される空調用の熱交換器、エアバス全機種垂直尾翼やA380の二階床構造に使用されるADP（炭素繊維構造部材）、ジェットエンジン部品などを製造しています。高度な熟練技能が要求される防衛関連機器や先端技術が必要なADP、エンジン部品の製造に当社独自のノウハウが活かされています。



① 航空機エンジン用冷却部品
② 航空機搭載用各種熱交換器
③ 大型オートクレーブ（全長12m）による製造工程



航空機整備事業

1955年の創業以来、今日まで航空機整備会社としての歴史を受け継いでいます。国内エアラインおよび官公庁（防衛省・海上保安庁・航空大学校など）より中小型飛行機・ヘリコプターの整備・改造並びに車輪・ブレーキをはじめとした各種装備品の整備などを受託しています。これからも飛行安全の確保と品質向上を最優先にお客様へ迅速で確実なサービスを提供していきます。



① ヘリコプターの整備
② レスキューホイスト（救助用巻き上げ装置）の整備
③ 大型機の車輪整備



新製品紹介

ジャムコは航空機内装品、航空機器製造、航空機整備の3つの事業を柱に、航空業界を独自の技術力でリードしています。その技術力を活かし、様々な製品やサービスを提供していますが、今回は新たに参入した航空機用シート事業についてご紹介します。

航空機のシート事業へ新展開

航空機内装品事業では、従来の大きな柱であるギャレー、ラバトリー、客室改修に加え新たな事業の柱とすべく航空機用シート事業へ参入しました。これは世界的に競合ひしめく事業分野ですが、そのなかでジャムコでは、ビジネスクラスやファーストクラスといった、より付加価値の高いプレミアムクラスのシートづくりに特化し、事業展開しています。

最初のお客様はシンガポール航空

ジャムコで製造したプレミアムシートは、シンガポール航空向けに900席以上を既に納めています(写真①)。そして2年の開発期間を費やした最新設計のボーイング777-300ER向けビジネスクラスシート(写真②)は昨年納入を開始し、現在3機に搭載されています。航空業界の格付け会社であるSKYTRAX社(英国)が運営するワールド・エアライン・アワードの2014年度のベスト ビジネスクラスエアライン シート部門で、1位の評価を受けました。このシートは、現在運航中の機体でも換装の計画があり、同社の多数の機体に搭載される予定です。



- ① シンガポール航空 ボーイング777-300ER ファーストクラスシート
- ② シンガポール航空 ボーイング777-300ER ビジネスクラスシート
- ③ エアバスA350ビジネスクラスシート[JOURNEY]

航空機シートの開発

ジャムコの航空機シートの開発は、ギャレー、ラバトリーの製造で培った軽量化、耐久性、そして複合材などに関わる基礎技術の上に、人間工学と革新的なデザインを採り入れて進めています。また、ギャレー、ラバトリーで求められる静荷重試験に加えて、

自動車の衝突試験に類似した人体のダミーを使用するの動荷重試験によって、頭部や腰椎への外力評価も実施しており、安全性にも十分に配慮した製品開発を行っています。これからも、安全で快適な空の旅をご提供できるように革新的な製品開発を進めてまいります。

連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,589,435	2,568,830
受取手形及び売掛金	19,662,596	17,672,542
商品及び製品	87,883	686,133
仕掛品	16,608,819	18,786,579
原材料及び貯蔵品	12,506,286	14,564,624
その他	4,795,455	5,833,450
貸倒引当金	△81,908	△84,903
流動資産合計	55,168,567	60,027,257
固定資産		
有形固定資産	10,881,407	12,685,319
無形固定資産	1,166,818	1,141,668
投資その他の資産	4,431,050	4,264,544
固定資産合計	16,479,275	18,091,533
資産合計	71,647,843	78,118,790

科目	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,778,555	12,008,385
短期借入金	20,773,796	21,832,212
未払法人税等	1,756,304	1,756,606
賞与引当金	1,384,856	1,696,572
工事損失引当金	494,168	973,388
その他	7,737,484	8,570,220
流動負債合計	42,925,164	46,837,385

科目	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
固定負債		
長期借入金	2,507,236	2,039,421
役員退職慰勞引当金	307,310	193,428
執行役員退職慰勞引当金	28,852	49,989
退職給付に係る負債	5,673,359	6,838,232
環境対策引当金	7,089	7,089
その他	507,658	464,951
固定負債合計	9,031,506	9,593,113
負債合計	51,956,670	56,430,499

科目	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,359,893	5,359,893
資本剰余金	4,367,993	4,367,993
利益剰余金	9,797,343	11,197,450
自己株式	△29,836	△29,911
株主資本合計	19,495,393	20,895,425
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	37,964	60,632
為替換算調整勘定	102,976	264,307
退職給付に係る調整累計額	△277,869	△250,171
その他の包括利益累計額合計	△136,928	74,767
少数株主持分	332,707	718,097
純資産合計	19,691,172	21,688,291
負債純資産合計	71,647,843	78,118,790



四半期連結損益計算書

(単位:千円)

科目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	28,605,000	34,413,247
売上原価	24,443,286	27,370,900
売上総利益	4,161,713	7,042,346
販売費及び一般管理費	3,115,775	3,905,510
営業利益	1,045,938	3,136,836
営業外収益		
受取利息	418	554
受取配当金	2,551	2,195
為替差益	146,205	483,703
持分法による投資利益	35,435	19,259
保険配当金	9,010	8,832
助成金収入	5	10,650
その他	58,456	83,150
営業外収益合計	252,083	608,345
営業外費用		
支払利息	122,379	122,421
その他	19,874	26,343
営業外費用合計	142,253	148,765
経常利益	1,155,767	3,596,416
特別利益		
投資有価証券売却益	-	137,615
固定資産売却益	54	37
段階取得に係る差益	-	259,210
特別利益合計	54	396,863
特別損失		
固定資産処分損	1,878	3,305
退職給付費用	192,148	-
特別損失合計	194,027	3,305
税金等調整前四半期純利益	961,794	3,989,974
法人税、住民税及び事業税	656,189	1,729,694
法人税等調整額	△260,963	△296,560
法人税等合計	395,225	1,433,133
少数株主損益調整前四半期純利益	566,569	2,556,840
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△37,279	18,034
四半期純利益	603,848	2,538,805

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	961,794	3,989,974
減価償却費	860,727	928,089
のれん償却額	-	96,345
退職給付及び役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△141,523	-
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	-	△29,131
引当金の増減額(△は減少)	94,911	788,889
受取利息及び受取配当金	△2,970	△2,749
支払利息	122,379	122,421
為替差損益(△は益)	163,991	35,547
持分法による投資損益(△は益)	△35,435	△19,259
投資有価証券売却損益(△は益)	-	△137,615
段階取得に係る差損益(△は益)	-	△259,210
売上債権の増減額(△は増加)	2,286,424	2,676,721
たな卸資産の増減額(△は増加)	△3,071,794	△3,987,197
仕入債務の増減額(△は減少)	△122,718	785,524
その他	587,423	56,479
小計	1,703,209	5,044,830
利息及び配当金の受取額	22,315	2,752
利息の支払額	△140,711	△124,636
その他の収入	45,282	109,689
その他の支出	△18,246	△13,679
法人税等の支払額	△1,440,181	△1,718,947
営業活動によるキャッシュ・フロー	171,668	3,300,008
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△449,664	△1,161,403
有形固定資産の売却による収入	54	5,557
投資有価証券の取得による支出	△1,412	△1,410
貸付金の回収による収入	1,733	3,701
貸付けによる支出	△3,499	△4,141
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△727,382
その他	△126,046	14,392
投資活動によるキャッシュ・フロー	△578,836	△1,870,685
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	19,782,375	20,929,408
短期借入金返済による支出	△17,962,149	△20,634,420
長期借入れによる収入	-	600,000
長期借入金返済による支出	△311,163	△792,016
リース債務の返済による支出	△132,292	△129,435
自己株式の取得による支出	△46	△74
配当金の支払額	△267,208	△400,387
少数株主への配当金の支払額	△43,416	△46,174
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,066,097	△473,099
現金及び現金同等物に係る換算差額	13,145	23,171
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	672,076	979,394
現金及び現金同等物の期首残高	2,579,927	1,589,435
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,252,003	2,568,830

会社概況 (平成26年9月末現在)

会社概要

商号	株式会社ジャムコ
本社	東京都三鷹市大沢六丁目11番25号
設立年月日	昭和24年3月15日
創立年月日	昭和30年9月1日
主な事業内容	<p>航空機内装品等製造関連事業 ギャレー、ラバトリー、シート、ギャレー搭載用各種装備品等の製造</p> <p>航空機器等製造関連事業 熱交換器、航空機用炭素繊維構造部材、民間航空機エンジン部品等の製造</p> <p>航空機整備等関連事業 航空機の機体、客室、装備品等の整備・改造</p>
資本金	5,359,893千円
従業員数	連結:2,769名 個別:1,201名

役員

代表取締役社長	鈴木 善久	執行役員	木村 敏和
代表取締役副社長執行役員	河野 通秀	執行役員	浅利 和美
代表取締役副社長執行役員	大倉 敏治	執行役員	青木 康成
代表取締役専務執行役員	関川 安雄	執行役員	市原 一義
取締役常務執行役員	星野 信也	執行役員	鈴木 雅人
取締役常務執行役員	比留間 正和	執行役員	加藤 正道
社外取締役	木村 亨	執行役員	政木 慎策
社外取締役	荒川 清朗	執行役員	粕谷 寿久
社外取締役	鈴木 伸一	執行役員	田所 務
監査役	白水 茂喜	執行役員	後藤 健太郎
監査役	和田 正史	執行役員	西宮 和夫
社外監査役	穉山 健太郎		
社外監査役	河村 寛治		

株式の状況

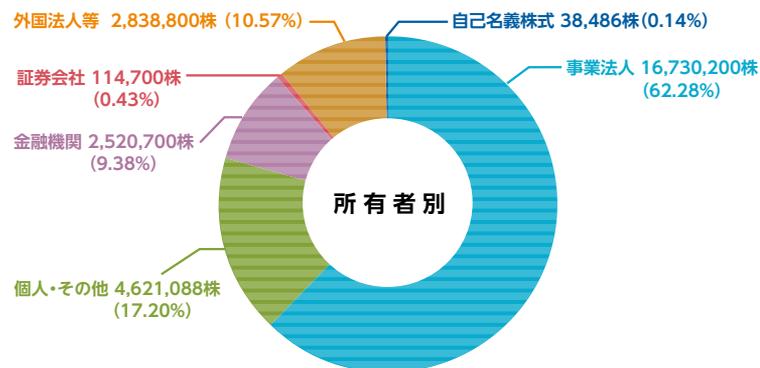
発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	26,863,974株
株主数	3,149名
上場証券取引所	東京証券取引所第二部(証券コード7408)

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	8,901	33.13
ANAホールディングス株式会社	5,373	20.00
昭和飛行機工業株式会社	2,003	7.45
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	948	3.52
ジャムコ従業員持株会	567	2.11
ザバンクオブニューヨークメロン140030	410	1.52
ザバンクオブニューヨークメロンSANV10	397	1.47
三菱商事株式会社	221	0.82
ゴールドマンサックスインターナショナル株式会社みずほ銀行	211	0.78
	200	0.74

(注)持株比率は、自己株式(38,486株)を控除して計算しております。

株式分布状況





事業拠点 (平成26年9月末現在)

■ 事業所一覧

本社

東京都三鷹市

航空機内装品カンパニー

●内装品工場
東京都立川市

航空機器製造カンパニー

●機器製造工場
東京都調布市

航空機整備カンパニー

●機体整備工場
宮城県岩沼市

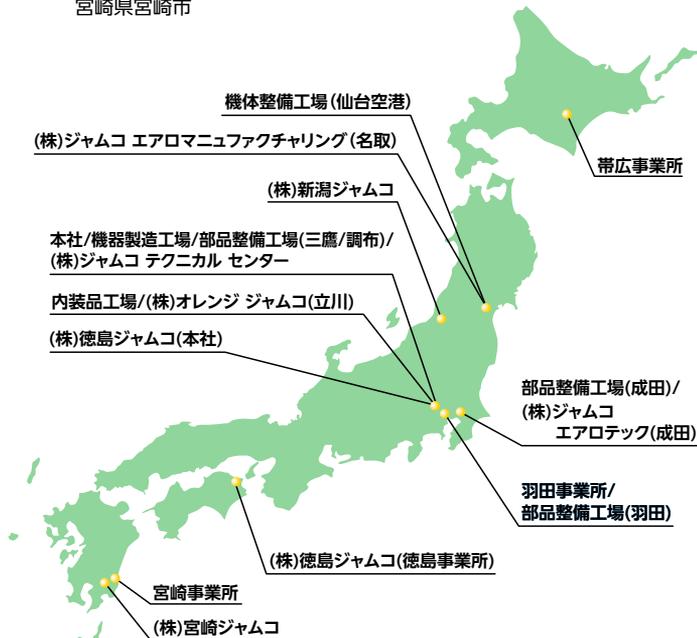
●部品整備工場
千葉県成田市

帯広事業所
北海道帯広市

東京都大田区
東京都調布市

羽田事業所
東京都大田区

宮崎事業所
宮崎県宮崎市



■ 子会社/関連会社の状況

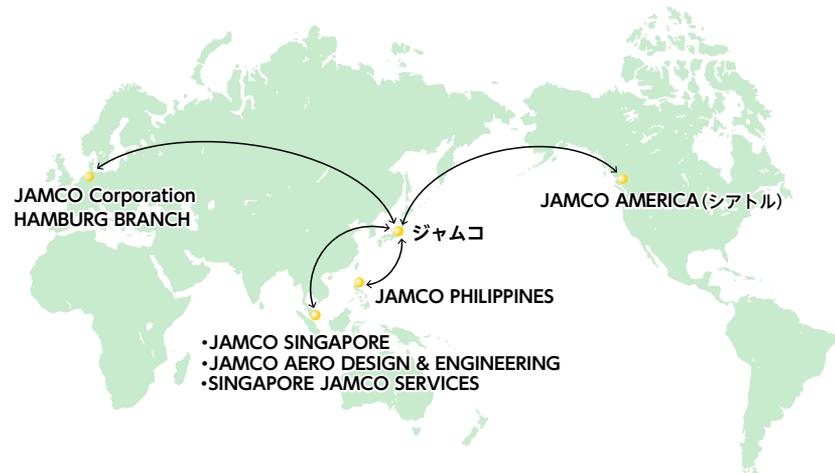
会社名	資本金	持株比率	主な事業内容
株式会社新潟ジャムコ	300百万円	100%	航空機内装品製造
株式会社宮崎ジャムコ	100百万円	100%	航空機内装品製造
株式会社徳島ジャムコ	30百万円	100%	航空機、航空機装備品整備改造
株式会社ジャムコ エアロテック	30百万円	100%	航空機、航空機装備品整備改造
株式会社オレンジジャムコ	10百万円	100%	航空機部品の組立補助作業等(障がい者特例子会社)
株式会社ジャムコテクニカルセンター	30百万円	100%	航空機内装品及び航空機製造の新技術、新製品の開発等
株式会社 ジャムコエアロマニュファクチャリング	100百万円	100%	航空機器製造
JAMCO AMERICA, INC.	16,538千US\$	91.87%	航空機内装に関する業務、部品調達業務等
JAMCO AERO DESIGN & ENGINEERING PTE LTD.	1,000千US\$	5% ^{*1}	航空機内装に関する技術業務
JAMCO PHILIPPINES, INC.	86,000千PHP ^{*2}	70% ^{*3}	航空機内装品製造
JAMCO SINGAPORE PTE LTD.	4,400千SG\$	75%	航空機内装品等の設計と製造
SINGAPORE JAMCO SERVICES PTE LTD. ^{*4}	6,705千SG\$	20%	航空機及び航空機装備品の整備

*1 子会社の所有割合と当社の所有割合を合計した所有割合は55%であります。

*2 JAMCO PHILIPPINES, INC.は、平成26年3月に増資を行い、資本金が43,000千PHPから86,000千PHPになっております。

*3 子会社の所有割合と当社の所有割合を合計した所有割合は100%であります。

*4 持分法適用関連会社であります。



事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所第二部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.pronexus.co.jp/koukoku/7408/7408.html (但し、電子公告によることが出来ない事故、その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) なお、計算書類及び連結計算書類に係る情報は、インターネット上の当社ウェブサイト(http://www.jamco.co.jp/)においてご覧いただけます。

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできません。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内 <http://www.jamco.co.jp/>

IR関連資料のページでは、決算短信、有価証券報告書、決算説明会資料や、その他のIR情報をご覧いただけます。

お問い合わせ先 | 広報・IR 経営企画部 TEL 0422-31-6112

株式会社 ジャムコ

本社
〒181-8571 東京都三鷹市大沢六丁目11番25号
TEL 0422-31-9111

※本資料に記載されております当社の計画や予測等は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に判断したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。